

## 火薬類譲受明細書

※以下について、該当する項目に☑し、その内容を記載

### 1. 火薬類の譲渡人の概要

譲渡人名称：

譲渡人は火薬類の製造事業者：☐該当 ☐非該当

譲渡人は火薬類の販売事業者：☐該当 ☐非該当

### 2. 火薬類を譲り受けるための事業の目的

☐採石法に基づく岩石の採取

認可日： 年 月 日

認可番号：

認可期間： 年 月 日から 年 月 日

☐土木工事

事業名：

事業期間： 年 月 日から 年 月 日

事業主名：

※申請者が事業主と直接の契約者でない場合は、事業主から申請者までの全ての契約関係者を記載する。

☐鉱山保安法第 2 条の鉱山

施業案認可日： 年 月 日

施業案認可番号：

施業案認可期間： 年 月 日から 年 月 日

☐その他（具体の目的を以下に記載）

譲受の目的：

事業の期間： 年 月 日から 年 月 日

### 3. 譲り受けた火薬類を消費できず残った場合の貯蔵方法

☐譲受人が所有または占有する火薬庫において貯蔵

火薬庫の所在地：

☐第三者の火薬庫において貯蔵 ※滋火様式第 6-2 号「残火薬類保管引受書」を添付

火薬庫所有者の名称：

火薬庫の場所：

☐その他（具体の貯蔵方法を以下に記載）

貯蔵の方法：

## 残火薬類保管引受書

下記の火薬類消費において生じる残火薬類を、当方火薬庫に預かり保管することを引き受けま  
す。

### 記

- 1 残火薬類の保管を依頼する者の名称
- 2 消費場所
- 3 消費の目的
- 4 預かり保管する火薬類の種類
- 5 預かり保管引受期間                    年    月    日から                    年    月    日まで
- 6 預かり保管する火薬庫所在地

年    月    日

引受者 名            称  
          住            所  
          代表者氏名

印

火薬類消費計画書

1. 消費の方法 ※該当事項に☑し、その内容を記載

(1) 発破の時間

発破時間 時 分 ～ 時 分

(2) 発破の方法

① 発破の種類

- ベンチ発破、 盤下げ発破、 トンネル掘進発破、 小割発破  
 その他（発破の種類： ）

② 消費する火薬および爆薬の主な種類

- 火薬  使用有（種類： ） ・  使用無  
 爆薬  使用有（種類： ） ・  使用無

③ 点火の方法

- 電気発破（種類：瞬発、DS、MS、発破母線の長さ\_\_m）  
 （結線の方法：直列 ・ 並列 ・ 直並列）  
 導火線発破（1本の長さ\_\_m、同一人の連続点火数\_\_発）  
 導火管発破  
 その他（発破の方法：\_\_\_\_\_）

④ 発破孔の込物

- 有(込物：\_\_\_\_\_ ) ・  無

(3) 火薬類消費数量の根拠

申請期間の切取り 又は破壊物の量		m <sup>3</sup>	1孔あたりの 最大装薬量	爆薬 火薬	kg kg
1 m <sup>3</sup> あたりの破壊 に必要な火薬類の量	爆薬 火薬	kg kg	発破1回あたりの 最大孔数		孔
申請期間の切取り 又は破壊に必要な 火薬類の量	爆薬 火薬	kg kg	発破1回あたりの 最大装薬量	爆薬 火薬	kg kg
平均削孔長		m	1日の最大発破回数		回
1日の最大消費量	爆薬 火薬 電気雷管 工業雷管 導火線	kg kg 個 個 m	1月の最大消費量	爆薬 火薬 電気雷管 工業雷管 導火線	kg kg 個 個 m

(4) 火薬類の年間消費数量内訳

火薬類の年間消費数量内訳は、滋火様式第 6-3-1 の火薬類年間消費数量内訳書による。

(5) 火薬類取扱所

- ① 設置の有無： 設置する (設置数 \_\_\_\_\_ 箇所)       設置しない
- ② 火薬類を火薬類取扱所に存置する場合の見張人： 常時配置       配置なし
- ③ 火薬類取扱所に土提を設けない場合の殉爆を避け得る距離 (以下「殉爆距離」という。) および他の施設までの距離
- ・火薬類取扱所に貯蔵する最大の火薬類の量： \_\_\_\_\_ kg
  - ・殉爆距離： \_\_\_\_\_ m
  - $\text{殉爆距離[m]} = 1.5 \times \text{火薬類取扱所に貯蔵する最大の火薬類の量[kg]}$  の立方根
  - ・火工所までの距離 \_\_\_\_\_ m
  - ・火薬庫までの距離 \_\_\_\_\_ m       殉爆距離内に対象なし
  - ・火気を取り扱う場所までの距離 \_\_\_\_\_ m       殉爆距離内に対象なし
  - ・人の出入りする建物までの距離 \_\_\_\_\_ m       殉爆距離内に対象なし
  - ・上記の距離が殉爆距離を確保できない場合の対策
- 対策： \_\_\_\_\_
- ④ 構造 ※上記②が「常時配置」の場合は記載不要
- 鉄筋コンクリート造
    - ・壁の厚さ： 10cm 以上       10cm 未満
  - コンクリートブロック造
    - ・壁の厚さ： 12cm 以上       12cm 未満
  - 軽量形鋼造
    - ・側面の壁の外表面： 厚さ 2mm 以上の鉄板       左記以外
    - ・床の下面： 厚さ 2mm 以上の鉄板貼り       左記以外
    - ・天井裏または屋根裏： 金網(線径 4mm 以上、網目 5cm 以下)張り       左記以外
- ⑤ 屋根の外表面： 金属板       スレート板       瓦       その他 ( \_\_\_\_\_ )
- ⑥ 扉 ※上記②が「常時配置」の場合は記載不要
- ・外表面： 厚さ 2mm 以上の鉄板張り       左記以外
  - ・鍵： 設置する (なんきん錠及びえび錠を除く)       左記以外
- ⑦ 暖房設備： 設置 (  建物内と完全に隔離した熱源       左記以外 )       設置しない
- ⑧ 建物内の照明設備： 設置 (  防爆型照明       左記以外 )       設置しない
- ⑨ 境界柵
- ・柵の高さ \_\_\_\_\_ m
  - ・境界の材質： 有刺鉄線 (間隔 \_\_\_\_\_ cm)       トラロープ (間隔 \_\_\_\_\_ cm)
  - ネットフェンス       その他 ( \_\_\_\_\_ )
- ⑩ 定員 \_\_\_\_\_ 人
- ⑪ 火薬類取扱所の構造を別紙に添付

(6) 火工所

- ① 火工所の設置数：\_\_\_\_\_箇所
- ② 火薬類を火工所に存置する場合の見張人： 常時配置     配置なし
- ③ 火工所の殉爆距離および他の施設までの距離
- ・火工所に持ち込む最大の火薬類の量\_\_\_\_\_kg
  - ・殉爆距離：\_\_\_\_\_m
- 殉爆距離[m] = 1.5 × 火工所に持ち込む最大の火薬類の量[kg] の立方根
- ・他の火工所までの距離\_\_\_\_\_m     殉爆距離内に対象なし
  - ・火薬庫までの距離\_\_\_\_\_m     殉爆距離内に対象なし
  - ・火気を取り扱う場所までの距離\_\_\_\_\_m     殉爆距離内に対象なし
  - ・人の出入りする建物までの距離\_\_\_\_\_m     殉爆距離内に対象なし
  - ・上記の距離が殉爆距離を確保できない場合の対策
- 対策： \_\_\_\_\_
- ④ 構造： 建物     テント     その他 ( \_\_\_\_\_ )
- ⑤ 暖房設備： 設置 (  建物内と完全に隔離した熱源     左記以外 )     設置しない
- ⑥ 建物内の照明設備： 設置 (  防爆型照明     左記以外 )     設置しない
- ⑦ 境界柵
- ・柵の高さ\_\_\_\_\_m
  - ・境界の材質： 有刺鉄線 (間隔\_\_\_\_\_cm)     トラロープ (間隔\_\_\_\_\_cm)
  - ネットフェンス     その他 ( \_\_\_\_\_ )
- ⑧ 定員\_\_\_\_\_人
- ⑨ 火工所の構造を別紙に添付

(7) 危険予防の方法

① 発破時の立ち入り禁止区域

発破する際は発破場所から \_\_\_\_\_m 以内は立ち入り禁止

② 発破孔の飛石防止措置

有（ 防護シート、 金網、 畳、 その他（ \_\_\_\_\_ ））

無

③ 見張人の配置

有 ・  無

④ 発破する際の警告の方法

サイレン、 拡声器、 その他（ \_\_\_\_\_ ）

⑤ 発破する者に対する飛石防護の方法

発破者に対する防護措置  有（防護方法： \_\_\_\_\_ ）

無

発破者は発破場所から \_\_\_\_\_m 以上離れて点火

⑥ 発破終了後の措置

発破終了後から \_\_\_\_\_分以上経過後に発破場所およびその付近への立ち入り

⑦ 火薬類の運搬用具

火薬類を運搬する用具の材質：

(8) 保安教育

火薬類取締法第 29 条第 6 項に規定する、従業者に対する保安教育は、 \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月頃に実施する

2. 消費場所において火薬類を取り扱う必要のある者

従事区分	氏名	年齢	免状 ※2	雇用関係 ※3
正 取扱保安責任者	滋火様式第 6-8 号「火薬類取扱保安責任者等選解任届」による			
代理者 取扱保安責任者	滋火様式第 6-8 号「火薬類取扱保安責任者等選解任届」による			
副 取扱保安責任者	滋火様式第 6-8 号「火薬類取扱保安責任者等選解任届」による			
火薬類取扱所責任者		歳	甲・乙・発・なし	直接・出向
火工所責任者		歳	甲・乙・発・なし	直接・出向
発破責任者		歳	甲・乙・発・なし	直接・出向
発破係		歳	甲・乙・発・なし	直接・出向
運搬係		歳	甲・乙・発・なし	直接・出向
保管係		歳	甲・乙・発・なし	直接・出向
		歳	甲・乙・発・なし	直接・出向
		歳	甲・乙・発・なし	直接・出向
		歳	甲・乙・発・なし	直接・出向
		歳	甲・乙・発・なし	直接・出向
		歳	甲・乙・発・なし	直接・出向
		歳	甲・乙・発・なし	直接・出向
		歳	甲・乙・発・なし	直接・出向
		歳	甲・乙・発・なし	直接・出向

※1 火薬類を取り扱う者すべてを記入する。

※2 「甲」、「乙」は火薬類取扱保安責任者、「発」は発破技士の免状区分を示す。該当するものに○をする。

※3 「直接」は申請者と直接雇用関係にある者、「出向」は他者の従業員を申請者の指揮監督のもと火薬類取扱に従事する者として受け入れた場合を示す。他者の従業員を受け入れた場合は、滋火様式第 6-4 号「火薬類取扱者出向通知書」を提出する。

3. 消費場所付近の見取図

(1) 保安物件

	保安物件の名称 ※1	発破場所から保安物件 までの最短距離
第 1 種保安物件		m
第 2 種保安物件		m
第 3 種保安物件		m
第 4 種保安物件		m

※1 発破場所から保安物件までの最短距離が 500m 以上の場合は「該当なし」を記載

(2) 火薬類消費場所付近の見取図

火薬類消費場所付近の見取図は、以下に基づき作成したものを別紙に添付する。

- ・発破場所から 500m の範囲を示せる縮尺の地図に記載
- ・発破場所から 200m の半径円を図示
- ・発破場所、火薬類取扱所、火工所、見張人、警告標識、保安物件（図面に記載できる範囲のもの）を図示





## 火薬類取扱者出向通知書

下記の者は、 年 月 日から に出向し、貴事業所の指揮監督のもとに火薬類の取り扱いに従事することを命じたので確認をお願いします。

記

(氏 名)

- 1
- 2
- 3

年 月 日

名 称  
(代表者) 氏 名 ④

---

## 火薬類取扱者受入確認通知書

様

貴社から出向通知のあった下記の者を、 に係る火薬類取扱者として受け入れたことを確認します。

記

(氏 名)

- 1
- 2
- 3

年 月 日

名 称  
(代表者) 氏 名 ④

火薬類譲受数量の説明書

1. 火薬類譲受数量の根拠

申請期間の切取り 又は破壊物の量		m <sup>3</sup>	1 孔あたりの 最大装薬量	爆薬 火薬	kg kg
1 m <sup>3</sup> あたりの破壊 に必要な火薬類の量	爆薬 火薬	kg kg	発破 1 回あたりの 最大孔数		孔
申請期間の切取り 又は破壊に必要な 火薬類の量	爆薬 火薬	kg kg	発破 1 回あたりの 最大装薬量	爆薬 火薬	kg kg
平均削孔長		m	1 日の最大発破回数		回
1 日の最大消費量	爆薬 火薬 電気雷管 工業雷管 導火線	kg kg 個 個 m	1 月の最大消費量	爆薬 火薬 電気雷管 工業雷管 導火線	kg kg 個 個 m

2. 火薬類譲受年間数量の内訳

火薬類譲受年間数量の内訳は、滋火様式第 6-5-1 の火薬類譲受年間数量内訳書による。



## 火薬類消費の説明書

※以下について、該当する項目に☑し、その内容を記載

### 1. 火薬類を消費するための事業の目的

採石法に基づく岩石の採取

認可日：           年    月    日

認可番号：

認可期間：           年    月    日から           年    月    日

土木工事

事業名：

事業期間：           年    月    日から           年    月    日

事業主名：

※申請者が事業主と直接の契約者でない場合は、事業主から申請者までの全ての契約関係者を記載する。

その他（具体の目的を以下に記載）

消費の目的：

事業の期間：           年    月    日から           年    月    日

### 2. 消費しようとする火薬類の所在

申請者自らが所有または占有する火薬庫で保管する自者所有の火薬類

譲受許可を受けている火薬類

許可番号：

許可年月日：

その他（具体の所在を以下に記載）

火薬類の所在：

### 3. 火薬類の貯蔵方法

譲受人が所有または占有する火薬庫において貯蔵

火薬庫の所在地：

第三者の火薬庫において貯蔵

火薬庫所有者の名称：

火薬庫の場所：

※滋火様式第 6-2 号「残火薬類保管引受書」を添付

その他（具体の貯蔵方法を以下に記載）

貯蔵の方法：

火薬類消費許可申請書等記載事項変更届

年 月 日

滋賀県知事 様

(代表者) 氏 名

名 称			
事務所所在地(電話)			
許可年月日、許可番号			
変更する申請書等 (変更対象に○を記載)	火薬類消費許可申請書		火薬類消費計画書
変 更 区 分 (変更区分に○を記載)	名 称	事務所所在地 (電話)	職 業
	(代表者) 住所氏名	( その他 )	
	変更区分名	変更後	変更前
変 更 事 項			
変 更 事 由			
変 更 年 月 日			
備 考			

- (備考) 1 変更事項については、変更のあった事項についてのみ記載する。  
 2 変更内容を上記に記載しきれない場合は、別紙に記載する。

火薬類取扱保安責任者等選解任届 (消費)			
		年 月 日	
滋賀県知事 様			
(代表者) 氏名			
名 称			
事務所所在地(電話)	(電話)		
消費の場所			
選解任年月日	年 月 日		
	[選 任 者]	[解 任 者]	
保安責任者	氏名(年齢)	( 歳)	
	住 所		
	免 状	種 県 号	種 県 号
	雇用関係	直接	
代理者	氏名(年齢)	( 歳)	
	住 所		
	免 状	種 県 号	種 県 号
	雇用関係	直接 ・ 出向	
副保安責任者	氏名(年齢)	( 歳)	
	住 所		
	免 状	種 県 号	種 県 号
	雇用関係	直接 ・ 出向	
副保安責任者	氏名(年齢)	( 歳)	
	住 所		
	免 状	種 県 号	種 県 号
	雇用関係	直接 ・ 出向	

- (備考)
- 1 選任者の火薬類取扱保安責任者免状の写しを添付する。
  - 2 「免状」欄には、免状種別、交付地および免状番号を記載する。
  - 3 雇用関係の「直接」は申請者と直接雇用関係にある者、「出向」は他者の従業員を申請者の指揮監督のもと火薬類取扱に従事する者として受け入れた場合を示す。他者の従業員を受け入れた場合は、滋火様式第 6-4 号「火薬類取扱者出向通知書」を提出する。

## 火薬類消費量年度報告書

年 月 日

滋賀県知事 様

氏名または名称  
法人にあつては代表者名

火薬類取締法施行規則第 81 条の 14 第 12 号の規定により報告します。

1. 火薬類を消費する場所
2. 消費許可年月日、許可番号
3. 報告する集計の期間 年 月 日から 年 月 日
4. 集計した数量

火薬類の種類	単位	前年度末 譲受残数量 [A]	譲受数量 [B]	消費数量 [C]	報告年度末 譲受残数量 [D]
黒色火薬					
無煙火薬					
その他火薬					
爆薬					
電気雷管					
その他火工品					
A+B と C+D が一致しない場合は理由を記載					